

町長発!

“がんばる”

トーク

町長 上川元張



3月2日に「わかさの保健医療を考える集い」を開催しました。これは、「住み慣れた若桜で最期まで暮らしたい」という町民の願いを叶える方法を考える場として、医療・介護・福祉に関わる町内の事業所と役場が連携して、10年前から毎年開催しているものです。

今回は、「地域医療とまちづくり」をテーマに、福井大学医学部の井階^{いはい}友貴^{ともき}教授を講師にお招きしました。先生は福井県高浜町の健康のまちづくりプロデューサーを兼務され、「まちづくり系医師」を自称し、地域に入り込んで活動を展開されています。

講演の中で先生は、人々の健康を決定づける要因として、生物の個性としての遺伝子や生活習慣に加えて、社会経済的な要因の影響が大きいことを指摘され、特に人々の交流やつながりが健康に良い影響を与えるとして、興味深い調査データを数多く紹介されました。「互いに信頼できる地域ほど長寿」、「人との交流が週1回未満から健康リスクが高まる」、「肥満の友人が多いと自分も肥満になりやすい」、「スポーツの集いに身を置くだけでブレイしなくても要介護リスクは低下」、「入院中にお見舞いがある人は退院後も長生き」、「友人の種類が多い人ほど歯の数が多い」といった具合です。

先生は、相棒の「赤ふん坊や」(高浜町のキャラクター)とともに、町民のつながりを深める工夫を随所に凝らしながら、町民主体の健康増進、世代間交流、郷土愛醸成の取組を実践されています。若桜町民にも「歳をとったから隠居ではなく、とったから外出。みんながどんどん地域に出て交流すれば、町も元気で持続可能に。」とメッセージをいただきました。

「つながりのチカラ」は「社会関係資本」(ソーシャル・キャピタル)ともいわれ、人々の協調・協力関係を促進し、社会を円滑・効率的に機能させる大切な要素です。健康面だけでなく、教育、治安、経済などの面で幅広い効果が実証されているそうです。

若桜町内では、例えば、八幡広場で毎朝多くの高齢者がグラウンドゴルフを楽しまれ、池田地域では昨年度域食堂が開設されるなど「食でつながる居場所づくり」の取組が広がっています。まちづくりの視点としても、こうした町民がつながる場を増やすことが、町の様々な機能を高めるためにも大切であると、改めて認識しました。

講演では、「赤ふん坊や」も駆け付けて会場を盛り上げてくれましたが、お二人?のコンビともつながり続けたいと思わせていただける、そんな楽しい集いとなりました。